

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、正面玄関のに入った見える場所に掲載しており、理念の実現に向けて頑張っている。全体会議の中でグループホームの理念や各ユニットの理念において職員と共有し、職員の思いを確認している。	「住み慣れた地で、生きることの素晴らしさ」という法人理念については玄関の目に着き易い所に掲示し来訪者に示している。また、家族に対しては利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明している。また、ユニット理念については申し送りや唱和し共有と実践に繋げている。事業所独自の「取り組みスローガン」については毎月発行されるお便り「ひだまり通信」に掲載し、家族にお知らせしている。職員の中に理念にそぐわない言動等が仮にあった時には管理者が事実を話し、改善へと導いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事(お祭り)に参加している。夏祭りなどは、区長さんをお願い地区の回覧板を通じてご案内をさせていただいております。	自治会費を納め、区民の一員として活動している。区長や回覧版で地域の行事の情報を頂くと共にホームの行事案内も回覧板に乗せていただき、ホームの夏祭りには地域の人々にも参加いただいている。地区のお祭りではお神輿が来訪し利用者の楽しみの一つとなっている。合わせて、今年は神社にお祭り見学に出掛ける予定でもある。また、引き続き小学校の運動会に招待を頂き子供達との交流を楽しんだり、中学生の職場体験も受け入れ、ふれ合ったりしている。更に、紙芝居、手遊び、歌、等のボランティアの来訪も定期的にあり利用者も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、区長、民生委員との交流を行っており、夏祭りなどにも参加していただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催をしている。会議では活動報告や事故及びヒヤリハットなども報告させていただいており、今後の改善に向けてご指摘や助言もいただいている。	家族代表、区長、民生児童委員、地域包括支援センター職員、市高齢者活躍支援課職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催している。利用状況報告、行事報告、事故・ヒヤリハット報告、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。職員全体会議で会議内容について報告を行い、支援に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議の場において、協力体制やサービス向上、地域への貢献について意見交換をおこなっている。	事故報告については市高齢者活躍支援課に報告している。地域包括支援センターとは入居状況を主として連携を取っている。あんしん(介護)相談員の来訪が月1回あり、利用者に関わる時間を持ち、特記すべき事項については報告があり支援に活かしている。介護認定更新調査はホームにて行い、殆どの家族が立ち会われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議などにおいて意見交換をおこない、理解を深め実施している。また、玄関の施錠をおこなう事は、家族に了解をいただいている。	拘束を必要とする利用者はなく、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は幹線道路に面しているため、安全確保の意味から施錠している。現在転倒防止のため家族と相談しセンサーマットや人感センサー使用の方がいる。リビングには常に職員がいるよう心掛け、きめ細かく所在確認を行い、安全確保に努めている。年2回、身体拘束の研修会を行い、拘束のないケアに取り組み、スピーチロックについても特に気配りし、職員同士互いに注意し合い取り組んでいる。	

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の場において、拘束内容の読み合わせをおこなっている。また、常日頃から、職員同士が言い合える状況をつくっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に学習に努めている。全体会議などで、学ぶ機会を作り活用し支援できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとり、丁寧に説明している。重度化や看取りや料金、医療連携などについては、詳しく説明し納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には来訪時何でも言っただけの雰囲気作りを努めている。また玄関のイリ口に意見箱を設置してあり、自由に意見を投函していただける場を提供している。	殆どの利用者が意思表示の出来る状況で、会話の中で思いを受け止め支援に繋げている。家族の来訪は週1回から月1回位で、遠方の方は年数回という状況である。来訪の際には職員が日頃の様子を細かく報告している。夏祭りや敬老会の2回の行事には家族の参加を頂き、懇談会、食事会、ゲーム大会、家族同士の懇談等を行い、交流を深めている。また、誕生日、母の日、父の日にはプレゼントや花を届けられる家族が多くいるという。誕生日会は3時のお茶に合わせ、好きなおやつ食べたり、日用品のプレゼントお渡ししお祝いしている。更に、月1回、ホームのお便り「ひだまり通信」を請求書に同封し、日々の様子をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や全体会議などで意見を聞くような配慮をしている。また、普段からいつでも話せる雰囲気作りを心掛けている。	月1回全体会議を行っており、各種研修、事故・ヒヤリハット報告、連絡等を行い、ユニット会議では利用者一人ひとりのケアについて、また、業務全体や悩み事等についても話し合い、職員間で共有し支援に繋げている。人事考課制度があり半年に1回行動目標を立て、それに対し自己評価を行い、事務長、管理者による個人面談が行われ、話し合いとともにお互いの意思疎通を図っている。合わせて資格取得時のお祝い金支給や資格取得の費用援助制度も引き続き行われ職員のスキルアップに繋げている。また、職員同士のコミュニケーションを図る機会を設ける予定がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も適宜に現場に顔を出し、職員の様子や勤務状況も把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画をたて、外部研修への参加の機会を提案している。また研修報告を全体会議などで報告し、資料などの提供をおこなって情報の共有をしている。		

グループホーム愛ランドわたち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	若穂地区の包括支援センターが主体となり、施設系の会議を2ヶ月に一回のペースでおこない、各施設の現状や問題解決に向けて意見交換をおこなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況の把握やどのような対応が出来るかどうか話し合いを重ねて信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いの中で、ご家族の思いや状況の確認をし改善に繋がるよう努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案をし、必要なサービスの改善に繋がるようしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いや不安など日々の生活の中で把握し、人生の先輩として、料理や縫物などを教えていただき、お互いに頼れる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子や気づいた様子を報告しながら、困った事などは相談し、情報を共有しながら、良い支援がおこなえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人をいつでも受け入れる体制が出来ていて、関係性が以前のように保たれるようになっている。	友人や近所の方の来訪があり、お茶をお出しし居室にて寛いで頂いている。来訪者については家族の許可を頂き報告もしている。携帯電話使用の利用者もいる。また、馴染みの美容院へ家族と出掛けられる方や兄弟とコーヒーを飲みに出される方、娘さんと月1回は外泊される方がいる。今年の年末には利用者毎に年賀状を作成し家族にお出しする予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性が円滑にいくように、職員が調整役になって支援している。利用者同士のトラブルが発生した場合は各自の話を聞き、早急に解決できるようにしている。		

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業者に住替えをされた場合はアセスメントやケアプランを提供し情報を共有している。また訪問の機会をつくり、生活の向上に繋がるよう情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を中心に、日々の関わりの中で、希望をお聞きし、ユニット会議等において、職員間で情報が共有できるようにしている。	殆どの利用者が意向を表すことができる状況で、自己決定を大事にし、飲物、入浴後の服装等を職員が提案し、思いに沿った支援に繋げている。利用者一人ひとりの日々気づいた言動等については家族からお聞きした生活歴も含めパソコン上に記録で残し、職員間で情報を共有し、出勤時、仕事に入る前に確認し支援に役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族様から、生活歴の情報の記入をいただいたりたり、日頃何気ない会話の中でお話を聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定で健康状態を把握しています。また、ワイズマンでの記録でも、一日の過ごし方やご様子を知る事ができている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族様からの要望等をお聞きし、介護計画書に反映させ作成している。	職員は1~2名の利用者を担当し、居室の環境整備、必要備品の管理、誕生日会の計画、個別外出を受け持っている。家族の希望は面会時と介護認定更新調査時に伺い、日々の状況変化については出勤職員がパソコンに記録として残し、ケアプランの見直しに合わせケアマネージャーがプランを作成し、基本的に6ヶ月に1回の見直しを行い、状況に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ワイズマンにて個別に記録している。 職員は随時、重要事項などは、申し送りに記録し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて、「外出したい・・・」など出来る限り対応し、利用者が満足していただけるように努力している。		

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区に配布される、市報の中の配布物や運営推進会議により、地域の情報を収集している。今年度は日程が合わず、参加が出来なかった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望により主治医を決めさせていただいている。	入居前のかかりつけ医利用の方が三分の一強おり、月1回から2ヶ月に1回の受診で家族に付き添いをお願いしている。他の方はホーム協力医の月2回の往診で対応している。また、ホーム常駐の看護師が健康管理を行い、夜間もオンコール対応となっている。歯科については必要に応じ往診で対応している。口腔ケアについては食前にパタカラ体操、早口言葉、歌を歌ったりし、食後には職員が入念に歯磨きをし口のケアにも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格のある職員に気づいた事など報告し指示を受けるようにしている。また、各ユニットリーダーや管理者から体調の変化があった際には、医療機関に連絡し適切な指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、病院の看護師や地域連携室のケースワーカーと連携を取り合い、退院に向けた担当者会議をおこなっている。また随時管理者は面会に行き、状況確認をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化に関する指針を提示し、看取りに関する理解と協力をお願いをしている。また、併せて終末期などの過ごし方の希望の聞き取りをおこなっている。	ホームとしての重度化に対する指針があり、利用契約時に説明し意向確認書にサインを頂いている。状況に合わせ家族の意向を確認し、医師の指示をいただき話し合いを行い、改めて説明の上、同意を頂き希望に沿った支援に取り組むようにしている。開設以来未だ看取りの経験はないが、同じ法人の経験豊かな入居施設と連携を取り、職員の知識を高めつつ終末期支援に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルと連絡網を作成し、緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回おこなっている。また、地域協定の指針が明確化された。	本年度地域との防災協定が結ばれ、区長や民生委員、消防署員などの参加の下、6月、11月の年2回防災訓練を実施している。うち、1回は消防車も参加しての本格的な消火訓練を行い、利用者も全員正面玄関より外へ移動して訓練を行っている。合わせて、通報訓練と消火器の使用訓練も行われている。備蓄については水、米、菓子等が用意されており、今後、缶詰、ガスコンロ、石油ストーブ等を準備予定である。また、水害想定訓練についても内容を検討の上、実施する予定である。	

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳やプライバシーを損ねないような声掛けや対応を心掛けている。 また、全体会議の場において、問題を提起し皆で話し合いをおこなっている。	同じ内容でも表現の仕方で受け取り方が異なるので特にスピーチロックには常に意識し日々の支援の中で気づいたことは注意し合い、利用者に対しては人生の先輩として尊敬の念を込め言葉遣いには気をつけ、気持ち良く過ごしていただくよう心掛けている。入室の際にはノックをし「失礼します」という声掛けを忘れずに、呼び方は苗字か名前に「さん」付けでお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時や起床時に、お好みの服を選択していただくようにしている。 また、10時や15時のおやつのお時間にお好みのお茶やおやつのリクエストをお聞きしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望をお聞きしたり、ご様子から「レクリエーションへの参加など、その方のペースに応じた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や起床時には、ご本人が希望される、洋服を選んでいただいたり、訪問理美容時には希望をお伝えできる状況にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの盛り付けを一緒におこなったり、食器を並べる、テーブルを拭く、食器を洗うなどをしていただいている。	介助が必要な方が数名いるが殆どの利用者は自力で食事が出来る状況である。朝食、汁物、ご飯はホームで調理し、昼食、夕食の主菜については配食会社のものを使用している。敬老会、夏祭り等、家族参加の行事の際にはお弁当や焼きそば等の特別料理を準備し、正月からクリスマス迄、年間を通した行事については季節に合わせた料理をお出しし楽しんでいただいている。また、おやつ作りは「ホットケーキ」、「おやき」、「たこ焼き」等、利用者も参加し楽しみながら行っている。更に、少人数に分かれランダムに「回転ずし」、「ファミレス」、「アイスクリーム」等の外食にも出掛け楽しいひと時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量をケアチェック表に記載し把握している。利用者の量や食事形態を表にして張り出して、職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所に移動していただき歯磨きをしていただいている。義歯をされている方については、汚れを落として、夕食後は義歯の洗浄をおこない、ケアしている。		

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアチェック表にて排泄の間隔などを確認をし、トイレ誘導をおこなっている。基本的に排泄はトイレに行っていたりしている。	自力で布パンツ使用の方が数名、一部介助でリハビリパンツとパット使用の方が四分の三という状況である。ケアチェック表を使いパターンを掴み、一人ひとりのパターンに合わせてトイレ誘導を行っている。起床時、食前、食後、おやつ前後、就寝前にも声掛けを行い、気持ち良く過ごしていただけるよう心掛けている。排便促進を図るため牛乳、乳酸菌飲料、ヨーグルトの摂取に加え、体操で体を動かすよう取り組んでいる。また、尿量によってパットの大きさを考え的確な誘導で費用の削減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケアチェック表にて排便の確認をしている。水分量が少ない方などには、声掛けをし便秘にならないようにしている。それでも便秘気味で便秘薬必要な方には、主治医と確認し、薬の処方をしていただき、内服していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週に最低2回、曜日を決めて入浴していただいているが、体調や外出などある場合には個々にあった支援をしている。	殆どの利用者が一部介助という状況である。入浴拒否の方もおらず、全利用者が週2回の入浴を行っている。冬場は入浴剤を使っての足湯をホームで行い、合わせて、近隣の温泉施設に外食も兼ね足湯に出掛けている。また、季節に応じ「ゆず湯」、「菖蒲湯」、「リンゴ湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。更に、家族と1泊で温泉に出掛ける方も数名いる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、生活のリズムを整え、安眠に繋がるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬情報をファイリングし、職員は随時確認できるようにしている。症状に変化があった場合には、直ぐに主治医に連絡をし、変化に対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、料理の得意な方には、野菜を切り、下ごしらえをしていただいている。また、お裁縫の得意な方には、他者のボタン付けなどをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食などに出掛けて、メニューの中から好きな物を選んで召し上がっていただいている。車でお花見や紅葉を見に行ったり、足湯に行くなど、気分転換をしている。	外出時、自力歩行の方と歩行器使用の方がほぼ三分の一ずつで、手引き歩行と杖歩行の方が数名ずつという状況で、一人ひとりに合わせ支援している。冬場は中庭を回る感覚でホーム内を歩き、機能低下を防いでいる。春から秋に掛けて、天気の良い日にはホームの周りを景色を見ながら、また、近所の方に挨拶しながら散歩したり、駐車場で外気浴をしながらお茶を楽しんだりしている。年間の行事計画があり季節に合わせて、お花見、紅葉狩り、また、外食にも出掛け外の空気に触れている。	

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の所持はされていないが、施設での買い物時には、レジで支払いをさせていただくなど、お金に触れる機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し、自由にお話しをされている。また、希望される方には、電話をお繋ぐなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に応じた貼り絵などを展示し、季節感をあじわっていただいている。	ゆったりとした広さが確保されたリビングホールは吹き抜けで、天井から明かりが差し込み開放感が感じられる。また、リビングのスペースにはいくつかのソファが置かれ、食後会話を楽しみながらテレビを見て寛いでいる利用者が見受けられた。リビングの脇には畳敷きのスペースもありゆっくり過ごすことができる。更に、壁には利用者の作品や行事・おやつ作りに興じる各利用者の様子を紹介した写真が貼られ、日々の生活の様子を窺うことができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士の席を横にするなどし、気軽に話せるように配慮している。 また、中庭には、パラソルを置いたり、廊下には椅子に腰掛けて、本を読むスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や愛用品を自由に置いていただいたり、写真を飾るなどしている。テレビなどもあり、くつろいで過ごしていただいている。	各居室への持ち込みは自由で、利用者一人ひとりの思いが詰まった居室となっている。大きなクローゼットが備え付けられ、掃除も行き届き綺麗なか中、使い慣れた家具、テレビ、家族の写真や自分の作品に囲まれ自由な生活を送っている。また、観葉植物や多くの季節の花々が置かれた居室もあり、自らの居場所として思い思いの暮らしを営まれていることが垣間見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にお名前を貼ったり、トイレの場所も貼ってあり、自由に行ける配慮をしている。		